



## 世界一の星空を映し出す、こども宇宙科学館プラネタリウム

～世界で戦うプラネタリウム・クリエイター 大平貴之さん～

学校長 高島 典子

一段と寒さが増す12月を迎えました。児童の皆さん、保護者の皆様並びに地域の皆様、ぜひ体調にお気を付けてお過ごしください。

去る11月25日、26日に無事HMF（ハッピーミュージックフェスティバル）が開催されました。今年は金曜日を低学年・高学年に分かれての校内発表とし、土曜日を保護者の方の参観としました。より保護者の方々にもHMFを楽しんでいただけたのではないかと思います。新型コロナウイルス感染症のため、マスクをして歌うことは息もしづらく、声量も本来ほど出すことは難しいのですが、それでも児童が素直な声を体育館中に響かせ心を一つにして歌う姿に私はジーンと胸にきました。全体合唱も学校が一つになったように感じました。特に4年生以上の器楽合奏の選曲は小学校の音楽の授業の中でも特に人気でやりがいのある楽曲です。取り組む意欲が大変高いですが、大合奏であればあるほど皆で合わせる事が難しくなります。一人一人のテンポ感が違う中、聞き合っ合わせていく練習を通して、皆で一つのことを作り上げる難しさと喜びを知っていきます。4年生、5年生、6年生とも堂々とした素晴らしい演奏でした。音楽会のある学校で本当に良かったとしみじみ思いました。

さて、話は変わりますが、本校の学区にあります「はまぎん こども宇宙科学館」のプラネタリウムがこの度新しい投影機（MEGASTAR-II A）が導入されました。世界最高となる10億を超える数の星が投影できるものにリニューアルされます。開発をした有限会社、大平技研の代表者、大平貴之氏は、小学生の頃から手探りでプラネタリウム製作を始め、それが今や世界一の技術として世界中から注目されています。「ガイアの夜明け」「情熱大陸」等多くのテレビ番組でも取り上げられ、世界で戦えるベンチャー企業の10社に入っています。最初はアルミホイールに穴を開けたり、豆電球を使用したりした簡易のものでしたが、探求心をもち続け、数々の困難を乗り越え遂にギネスに挑戦というところまで来たのです。「星空をつくる プラネタリウム・クリエイター 大平貴之」という本（文研出版）（昨年の読書感想書の課題図書）の中に詳しく載っています。大平氏は家庭用のプラネタリウムも作成しているのでお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。新しい投影機によるプラネタリウムは、12月1日から公開です。

そして最後に、12月の初めといたら大事な「人権週間」があります。今年は多様な性「ジェンダー」について取り組みます。難しいテーマなので、教育委員会より講師を派遣していただき教職員研修を行いました。加えて私自身も外部機関に行って研修を受けてきました。そこで講師の方から「先生の言葉が子どもの人生を変える」と伺い、まず自分たちから認識を変える必要性をひしひしと感じました。「学校でやることは、子どもたちがジェンダーの課題に直面する前に、少しずつジェンダーに関する情報を伝えておく」ことで、「生まれた時の性別と自分の感じる性別とが違って、それはちっともおかしいことではない。」「自分が何者でも、自分の気持ちを大切にしていく。」等の大事な考え方を知りました。そして最後に「人の考えが、社会を変えていく。」という力強い言葉ももらいました。12月2日の朝会で話をします。